

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名

ONKEN Dady Ingwen

論文題目

Local People's Strategies to Cope with Land Degradation:
Understanding the Role of Traditional Leaders in Yassa-Munene
Village in the Democratic Republic of Congo

(土地の劣化に対処する地元住民の戦略: コンゴ民主共和国ヤサ・ムネネ村の
伝統的リーダーの役割)

論文審査担当者

主査	名古屋大学	教授	伊東早苗
委員	名古屋大学	教授	東村岳史
委員	名古屋大学	教授	西川由紀子
外部委員	東京大学	特任助教	華井和代

論文審査の結果の要旨

1. 論文の概要と構成

本論文はコンゴ民主共和国において250以上あるといわれる民族集団のひとつであるアンブーン族の中心的居住地であるヤサ・ムネネ村において、住民が伝統的にどのようにして農地を管理してきたかを記述し、近年の農地の劣化に対して住民がとった戦略と、その戦略が形成されるにいたった要因を、伝統的な村落リーダーの役割と関連づけて分析するものである。農地の劣化が進むといわれるアフリカ諸国を対象に、農地が劣化する過程を検証し、住民の対応策を分析する研究は多くあるものの、住民が土地の劣化に対処するための伝統的知識と科学的知識をどう組み合わせ、また、特定の戦略をなぜ選ぶのかという理由や決断の過程を詳細に検証した研究は少ない。中でも、アンブーン族という民族集団の居住地を対象とする研究は、日本はもとより英語圏でもほとんどなく、希少性が高い。著者は2014年3月から9月まで調査地であるヤサ・ムネネ村に居住し、人類学的な調査を行った。現地語で生活しながら参与観察を行い、同時に、参加型手法(PRA: Participatory Rural Appraisal)および半構造的インタビュー手法を組み合わせデータを集めた。それにより、住民の自然資源管理に関わる伝統的知識や制度を掘り起こし、意思決定の過程を分析した。本論文の中心的議論は、アンブーン族の村において土地の劣化をくいとめるための戦略を決定づける決断は、住民自らの合理的な損得勘定の結果というよりは、伝統的リーダーの影響によるところが大きいというものである。先行研究で指摘される伝統的リーダーの役割は、仲裁者、調整者あるいは支配者というものだが、本論文で著者が注目するのは、自らリスクをとって新しい戦略を試し、他の住民に模範を示すという側面である。

本論文は全6章からなる。第1章は、研究課題及びその背景や意義を説明し、論文で用いられる概念の定義、論文の構成、中心的議論を提示する章である。第2章は、アジアとアフリカの農村地帯における伝統的な土地管理の方法と、住民が土地の劣化にどのように対処しているかに関わる先行研究の議論を整理する章である。とりわけ、アフリカ諸国の農村における伝統的な制度やリーダーシップに関わる議論を整理し、本論文が扱う研究課題の意義と連結させている。先行研究では、土地の劣化への対応策として、住民は伝統的知識を現状にあわせて修正したり、政府・NGO・開発援助機関・研究者等外部者の助言に従ったりすることが議論されているものの、村落内の伝統的リーダーの役割に注目する議論が少ないことに着目する。また、伝統的リーダーの役割に注目する数少ない文献は、リーダーの役割を外部者と内部者をとりもつ仲介者、調整者と分析するものがほとんどであると指摘する。第3章は、本論文が依拠する質的データの収集方法と分析枠組を提示し、調査地の概要を導入する章である。分析枠組みは、土地管理に関係する複数の伝統的リーダーと住民、外部組織、文化的規範及び価値観の関係性を示した先行研究に依拠する。第4章及び第5章は、現地調査で収集したデータを提示し、分析する章である。まず第4章で、ヤサ・ムネネ村の社会経済状況と生態上の諸問題を説明し、住民による伝統的な土地管理の知識や伝統的リーダーの役

論文審査の結果の要旨

割と仕組み及び土地の劣化に対する住民の受けとめ方を詳細に記述する。その結果、先行研究で議論されるように、住民は農具の使用や植えるべき野菜の品種について、伝統的な知識を援用したり、外部者による農学的観点からの助言を得て伝統的知識を一部修正したりしながら対応する他、伝統的リーダーの模範に従って対応すると議論する。先行研究で言われるリーダーの果たす役割とは違い、本研究で明らかになる伝統的リーダーの役割は、自らが新しい取り組み（たとえば魚の養殖等）を実践するリスクをとり、住民に対して模範を示すものであると議論する。続いて第5章では、前章で議論した伝統的リーダーシップに関わる制度を、第3章で提示した分析枠組にあてはめ、1920年代以降の歴史の変遷を3期に分けて分析する。とりわけ、1980年代以降、開発に関わる様々な外部者が住民と直接の交渉を行い、伝統的リーダーの役割を読み間違えたことを指摘する。2007年以降になって、伝統的リーダーによる革新的な方策が顕著な効果を現し始めたと議論し、その原因を第4章の結論を補強する形で分析する。その結果、伝統的リーダーが土地の劣化への革新的な対応策を住民の間に普及させることに成功したのは、これらのリーダーが先行研究でいわれるような資源管理者、仲介者、アドバイザーとしての役割を担ったためではなく、住民が冒すことになるリスクを自ら先取りして模範を示す役割を担ったためであると議論する。

第6章は各章の結論を統合し、第5章の議論を論文全体の中に位置づけて、先行研究にない本論文の独自の貢献についてまとめる章である。本研究の第4章および第5章の成果は2本の論文（うち1本は仏語）にまとめられており、英語のものは査読付きの国際学術誌に掲載されている。

2. 評価

本論文は政治的混乱のイメージが強いコンゴ民主共和国を対象とし、先行研究がほとんど存在しない中で、農村地帯に居住する普通の人々の生活と自然との関いを明らかにした点で、高い評価に値する。それに加え、具体的には以下の貢献が評価される。

1) 人類学的調査をもとに、アンブーン族の自然に対する考え方や伝統的な知恵を掘り起こし、自然資源管理を迫られる人々が、伝統的な信仰や知恵と外部の介入によってもたらされる近代的農法との折り合いをどうつけているかを詳細に記述し、現地の人々の視点から再構築した。

2) アフリカ諸国の農村地帯における伝統的リーダーの役割を調査した研究は数あるものの、自然資源管理との関係で、これらのリーダーが象徴的なリーダーシップを果たすだけでなく、自らリスクをとり、他の住民に行動を通じた模範を示すことによってリーダーシップを発揮するという新たな視点を提示し、実証的に描き出した。

論文審査の結果の要旨

同時に、本論文は以下のような不十分な点も含んでいる。

- 1) 伝統的なリーダーを擁する制度について詳細に記述する一方で、行政組織との関係や、行政的な側面でのリーダーシップを誰がどう発揮するのかについての分析が弱い。
- 2) 住民の自然資源管理や伝統的リーダーの役割を取りまく宇宙観や精神世界についての説明が手薄な部分があり、住民がリーダーを模範と仰ぐにいたる文化的背景が必ずしも十分に説明されていない。

しかし、これらの点は、論文著者が今後の研究を深化させる上で取り組むべき将来の課題であり、本論文の価値や独自性を損ねるものではない。本論文は、博士論文としての水準に足りるオリジナリティと学術的価値を十分に有していると判断する。

3. 判定

以上のような審査の結果を基に、本論文は博士（国際開発学）の学位に値するものと判定する。